

2025年6月22日 第二礼拝

説教題「邪悪なこの時代から」使徒言行録2章36～42節

主任牧師 加藤 誠

「ペトロはこのほかにもいろいろ話をして、力強く証しをし、『邪悪なこの時代から救われなさい』と勧めていた。」(使徒言行録2:40)

いよいよ暑い夏を迎えますが、第二礼拝では使徒言行録から、聖霊の不思議な力に立てられていった教会の姿を通して聖霊の熱い励ましを受けていきたいと思えます。

今朝ご一緒に開いたのは、ペンテコステの日のペトロの説教の一部ですが、そのメッセージの中心は「ナザレの人イエスこそ、神から遣わされた方」(22節)であるのに「あなたがたは律法を知らない者たちの手を借りて、十字架につけて殺してしまった」(24節)。しかし「あなたがたが十字架につけて殺したイエスを、神は主とし、またメシアとなさったのだ」(36節)というものであり、端的に言えば目の前のエルサレムの人たちの罪を厳しく断罪するメッセージでした。これを語るに際してペトロは相当な覚悟と勇気が求められたことでしょう。

しかし、聖霊は人を変えます。語るペトロを変えるだけでなく、聞く人々をも変えます。そして聖霊には人と人との関係を変える不思議な力があります。自らの小ささと弱さを思い知らされて下を向いていた者の顔を天に向けて上げさせる力、怒りや憎しみで頑なな心を柔らかに開く力があります。私たちは自らの力・信仰・努力では自分を変え切ることはできませんが、聖霊は私たちを新しい人に変えるのです。どうしてそのようなことが可能なのか。ペトロは語ります。天の神の右に挙げられた十字架の主を通して聖霊が注がれるからだ。十字架にあらわされたキリストの愛は、自分に敵対する者、裏切り見捨てた者への愛です。これは神だけがなしうる愛であり、私たち人間には困難な愛です。「人間にはできないが神にはできる。神は何でもできるからである」。ペンテコステの日、天の神の右におられる十字架の主を通して神の愛の息吹が吹き入れられたとき、ペトロたち弟子たちも、その説教で罪を厳しく問われた人たちも、それぞれ神の愛によって新しい人に創りかえられたのでした。

37節「人々はこれを聞いて大いに心を打たれ、ペトロと他の使徒たちに『兄弟たち、わたしたちはどうしたらよいのですか』と言った」。「兄弟たち」というのは29節のペトロの呼びかけと同じです。どちらが「上、下」ではない。お互いに「同じ地平に立つ者同士」の呼びかけです。ペトロの説教の言葉は厳しい内容でしたが、ペトロが「上に立って人々の罪を問いただす」のではなく、同じ神の前に「同じ罪人である兄弟」として「同じ地平に立って」ペトロは語ったのでした。ペトロも十字架の前から逃げた一人であり、主イエスを十字架につけた人たちと同罪でした。聖霊は私たちをそのように神の前に「同じ罪人」として「平らな地平に立つ者」とするのです。

ペトロは人々に対して「悔い改め、バプテスマを受け、罪を赦していただく」ように勧め、そうすれば「賜物として聖霊を受ける」と語ります。ここは「ん？」とひっかかるところです。というのもパウロ以降の教会の信仰では「聖霊の働きによって、私たちはイエス・キリストの十字架の赦しを信じる信仰に導かれ、バプテスマを受ける」という順番、つまり「聖霊→罪の赦しを信じる信仰→バプテスマ」という理解がふつうだからです。一方で、バプテスマにおいて私たちは私たちのすべての罪を赦したもうキリストの愛に包まれている自分を体感し、人を新しく生まれ変わらせる聖霊の働きを実感する恵みにあずかります。そういう意味で「バプテスマ=賜物（プレゼント）として聖霊の恵みの体験」を勧める言葉として受けたいと思います。

そして今朝、特に注目したいのは「邪悪なこの時代から救われよ」というペトロの招きの言葉です。わたしたちがいただくイエス・キリストの信仰は個人の救いにとどまらず「時代からの救い」を意味しているのです。「邪悪な時代」とは「神に背を向けた、自分中心の、よこしまで、不義がまかり通っている時代」という意味です。この「邪悪なこの時代から救われよ」という言葉を黙想しながら、改めてわたしたちがその時代時代の雰囲気、流行、価値観に染まりやすい者であるかを考えさせられました。例えば戦前は「戦争=正義」でした。平和を語る者は「軟弱」と非難を受け、多くの人が口をつぐみました。戦後もその時代を支配する価値観、特に力を持った人の言葉や大多数の人びとの声高な言葉に、私たちは心をからめとられてきたように思います。「みんながそう言っているから」という言い訳で、神に背を向ける罪に鈍感になっているわたしがいないでしょうか。沖縄のことで、あれだけ基地建設に反対の民意があらわされるのに、私たちの国はその民意を踏みにじってしまっている。そこに「邪悪なこの時代からめとられている私たち」が示されます。主イエスも福音書でたびたび「よこしまで神に背いた時代」に心をからめとられている人々の姿を嘆きながら、「神の国は近づいた。悔い改めて（方向転換して）福音を信じて生きよ」と、神の愛を真ん中にして生きる幸い、喜び、希望を宣べ伝え続けられました。クリスチャンは「邪悪なこの時代」にあって神の国（神の愛）を真ん中に生きるように招かれています。主イエスが見られたようにこの世界を見、主イエスが聞かれたように聞き、主イエスが祈られたように祈る者とされたいのです。聖霊の働きの前に心柔らかかにされて「神が求めておられる平和に対して、自分たちがいかに的外れであるか」を正直に認め、「どうしたらよいのでしょうか？」と祈る者にされたいのです。

今日わたしたちが「邪悪なこの時代」のどのような罪にからめとられていて、どのような罪から解放されるように促されているのか。十字架の主から注がれる聖霊によって教えていただいいていきましょう。そして、聖霊によって神の国の愛と喜びと希望を分かち合って生きる、新しい人に創り変えられていきたいと祈ります。